

地元の中学校が、選択授業にマリンスポーツを採り入れました。

【伊江村 B & G 海洋センター・沖縄県】

沖へ出ることで海の捉え方が違ってきた

沖縄本島北部、本部半島の北西 9 キロ沖合いに浮かぶ伊江島。サトウキビなどの農業が盛んで、美しい海岸線が続くことから大勢の観光客もフェリーに乗って訪れます。地元の伊江村では、海水浴場に隣接した村営キャンプ場を設けるなどしてレジャーのインフラを整えてきましたが、その核となっているのが昭和 60 年に開設された、伊江村 B & G 海洋センターです。村には 2 つの小学校と 1 つの中学校がありますが、プールがあるのは 1 つの小学校のみとなっており、学校の生徒たちはもちろんのこと広く村民が利用できるプールの実現は村の念願となっていました。

「プールができて、まず生徒たちが喜びました。みんな幼いときから海に馴染んでいます。それだけではクロールや平泳ぎなどプールで行う水泳はなかなか身に付きません。プールがあって、初めて競泳を知ることができるのです」

海洋センターのプールは、ほとんど毎日、地元の小中学校が水泳の授業で利用しており、それだけでも西江 正所長をはじめとするスタッフたちは大忙しです。

一方、艇庫にはカヌーや OP ヨットが置かれており、海洋クラブの活動も盛んです。多いときで 30 名ほどが在籍し、今年は 15 名の小中学生が週に 1 回、海に出ているそうで、夏休みになるとクラブの卒業生が子供たちの指導にあたっています。

こうした艇庫の利用価値に気づいたのが、地元中学校の校長先生でした。

「せっかく海に出られる施設があるのだから、ぜひ有効利用したい」

と、今年から体育の選択授業にマリンスポーツを導入。自ら、授業の指導にあたるようになりました。

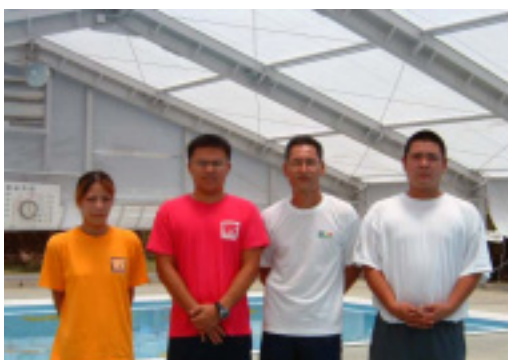
「校長先生が指導に来られるので少々驚きましたが、私たちスタッフとしては大歓迎でした。生徒たちの反響も大きく、熱心に OP ヨットの艀装などを覚えています。ただ単に海水浴で海に接するのとは異なり、器材を使って自らの力

で沖に出るということで、海の捉え方がだいぶ違ってきているようです」

ヨットやカヌーを操って沖に出るということで、単に水際で遊ぶことと比べて安全意識や自己責任への関心が高まるようです。校長先生は、「どうしてもマリンスポーツを導入したい」と熱望したそうですが、その成果が1年目にして早くも生まれています。

このほか、海洋センターでは毎年、7月20日の海の日に「マリンスポーツ無料体験会」を開催しており、器材を使って海に親しむことを村民に広めているほか、毎年、夏休みになると高島町の小学生たちを村にホームステイさせながら、マリンスポーツを通じて村の子供たちとの交流を深めています。

それでも、「もっともっと艇庫の利用を高めていきたいと」、西江所長は意欲満々。現在、艇庫をベースにしたマリンスポーツ大会など、いろいろな案を考えているそうです。



伊江海洋センターのスタッフです。



海の日のマリンスポーツ無料体験会。今年は100名が参加して賑わいました



毎年行われている高島町との交流事業。育成士の研修で知り合った職員同士が考えたアイデアでした



毎日のように予定が詰まっているプール。最近は、水中エアロビクスや水中歩行など主婦や高齢者向けのメニューも増えてきました